

## ◇現代社会と青年◇

## 「一流に触れる大切さ」

## ZOZOチャンピオンシップ開催

株式会社キャリアアソシエーション  
代表取締役社長

むろだて いさお  
室館 勲



令和元年十月二十四日。日本で初めてのPGAゴルフツアー（米国のゴルフツアー）「ZOZOチャンピオンシップ」が習志野カントリークラブで開催されました。賞金総額十億円、優勝は約二億円と国内大会とはスケールが桁違いでした。国内大会の入場券は国内ツアーでは約五千円のところ、今回は一日券が一万二千円。それでも入場チケットの八万枚が早々に完売するという人気ぶりでした。

タイガー・ウッズ（米）、ローリー・マキロイ（英）、ジョーダン・スピース（米）、ジェイソン・デイ（豪）、松山英樹（日）など、世界の一流選手を目の前で見られるチャンスは中々ありません。私は、ゴルフはプレーするのも観るのも好きです。で、今回、会社のゴルフ仲間四人とともに、大会初日の観戦に行きました。世界レベルのプロゴルファーのオーラを間近で感じるためです。

ウッズが一番ホールに登場した時の歓声は凄まじいものでした。豪快に放ったテ

ィーショットはフェアウェイど真ん中に落下。胸を張って堂々と歩くウッズのオーラに「これが王者の貫禄か」と圧倒されました。

マキロイのオーラも素晴らしかったです。間近で見るとマキロイは、テレビで見ると以上に体格が大きく見えました。楽しそうにライバルと話す姿から、自信と余裕を感じました。松山英樹は、十六番ホール（パー3）のプレーをグリーン近くで観戦体も大きくオーラもあり、世界で戦う男の背中から感じるものがありました。グリーン上で慎重にラインを読む姿に感服いたしました。

一方、スター選手の一人であるスピースは、ここ最近、勝利から遠ざかっているからか、オーラも少なく、不思議と体も細く小さく見えたことに驚きました。

今回、台風・豪雨の影響で二日目は中止、三日目は無観客試合になるなど大変でしたが、関係者の努力もあり、無事に大会を終えることができました。今大会の優勝はタイガー・ウッズ。世界記録サム・スニードの八十二勝に並びました。ZOZOにとっただけではなく日本にとっても、本当に良い大会になったと思います。

今回、一流選手のプレーを間近で観て、言葉にできないものを感じ、熱くなりました。ゴルフに対する気持ちも新たにになりました。

「本物・一流のものに触れなさい」という教育を常々しておりますが、私自身も、一流の人やものに触れるということ、これからも大切にしていきたいと思えます。